

令和 7 年度 保育所の自己評価
社会福祉法人若水会 柴崎にじのいろ保育園

本園の保育全般について総合的に自己評価しその結果を公表するとともに、評価の結果を踏まえ、専門性の向上や保育実践の改善に取り組み、より良い保育を提供できるよう努めてまいります。

【評価】 A：十分に取り組んでいる、B：概ね取り組んでいる、C：取り組んでいるが十分ではない

	項目	評価	取り組み状況
1	子どもの理解と 関わり	A	・ 法人の理念に基づき、子ども一人ひとりの発達や気持ちに寄り添った関わりを心がけている。 ・ 作業療法士や市の発達巡回相談など、一人ひとりの育ちに合わせて配慮できるよう指導を受けている。
2	保育の環境構成 (人・もの・場所)	B	・ 毎月、保育園内外の衛生安全チェックの実施。 ・ ヒヤリハットや事故情報の共有、検証を職員間で実施し、安全管理に対する意識向上に努めた。 ・ 子どもの発達、興味関心に合わせた室内環境の見直しと整備。
3	在園家庭との連携と 子育て支援	B	・ 各クラス年 2 回の懇談会や年 1 回の個人面談を実施し、子どもやクラスの様子、育ちを保護者と共有。 ・ 0 歳児クラスから「保育士体験」の受け入れを行い、保育士と子ども、子ども同士の関わりを見て、保育を知ってもらう機会になった。
4	地域との連携と 子育て支援	B	・ 地域の子育て支援家庭対象に、園庭やホールを開放。 ・ 親の育児不安軽減を目的に、「出産前の体験学習」を実施。 ・ 1 歳児からの一時保育の受け入れを開始。 ・ 中高校生の職場体験、小学生ボランティアの受け入れを行う。
5	職員の資質向上	B	・ 保育カウンセリング研修や保育内容に関する外部研修を受講。 ・ 常勤職員の 8 割が普通救命講習を受講。 ・ 園内ではテーマを決めて職員研修を行い、危険予測力の向上や職員同士の関係づくりに努めた。
6	運営・体制の整備	B	・ 園内に見守りカメラの設置。 ・ 安全管理プロジェクトを立ち上げ、メンバーを中心に安全に関する課題の抽出と改善に取り組む。 ・ ICT 化の整備を進める。

【総評】

- ・ 民営化 6 年目を迎え、当法人の理念に基づく保育実践を乳児から就学前まで連続して取り組むことができ、子どもの自発性や自己肯定感、自分と友だちを大切に思える心の育ちが見られている。一方で、経験年数の幅広い職員集団において、理念の共通理解や子どもの発達を理解した環境構成、安全面の配慮、保育計画は改善が必要である。今後は、安全安心を基盤にした保育内容の充実を目指すため、安全対策の仕組み化や勉強会の時間を確保し、職員間で継続して学び、保育力を向上させていきたい。

【今後取り組むべき課題】

- ・ 安全な保育、子どもの発達を保障する保育環境の充実に向け、職員間で危機管理や子どもの発達、環境構成について学び、より良い環境づくりに取り組む。
- ・ 地域との連携、交流を広げる